

# 磐城中正新報

發行日 毎月一日 十五日  
 定額 共 一部 金 拾 錢  
 郵税 共 一 部 金 拾 錢  
 廣告料 普通欄十二字一行情  
 一回八十錢 場所指定  
 一回二十錢 増  
 印刷 安澤榮作  
 編輯 安澤榮作  
 發行所 福島縣平野町新報社  
 電話 四〇四

## 猛烈を極めた 平町議の選挙戦

### 棄権は僅かに四分弱の 好成绩で終了

二旬に亘つて猛烈な政戦を  
 續けて来た平町會議員選挙  
 戦は候補者三十七名が有権  
 者三千九百五十三名を繞つ  
 て各自悲壯な運動を續けて  
 来たが最後の運命を決すべ  
 き二十九日午後十二時頃に  
 は敵も味方も互に鋒を收め  
 三十日午前六時より午後七  
 時までに投票終了した名簿  
 調製當時の有権者は三千九  
 百五十三名で其後の異動失  
 格重複等を差引三千七百三  
 十三名の有権者中投票数三  
 千五百八十七票内無効二三  
 票で非常な好成绩を示した  
 向票の結果當選者は左の  
 如くである

- |     |       |    |        |
|-----|-------|----|--------|
| 一三三 | 石山治三郎 | 八六 | 齊藤敏實   |
| 一〇九 | 猪狩庄平  | 八六 | 荒川恒次郎  |
| 一〇八 | 武田元之助 | 八六 | 佐藤岩次郎  |
| 一〇八 | 國府田直良 | 八四 | 吉田五平   |
| 一〇六 | 柳下元吉  | 八二 | 花澤兎五六  |
| 九三  | 鈴木光吉  | 七九 | 櫻井清    |
| 九二  | 青沼録太郎 | 七六 | 永山富廣   |
| 九一  | 大森勇   | 七三 | 緑川喜三郎  |
| 九〇  | 佐々木龍若 | 七三 | 坂本隆藏   |
| 八八  | 馬目雅治  | 七三 | 遠藤林松   |
| 八八  | 荒川淺次郎 | 七〇 | 瀧澤俊平   |
| 八八  | 荒川淺次郎 | 六九 | 松永友太郎  |
| 八八  | 荒川淺次郎 | 六〇 | 加納五郎   |
| 八八  | 荒川淺次郎 | 五八 | 佐々木健一郎 |
| 八八  | 荒川淺次郎 | 五三 | 宇佐美友二郎 |
| 八八  | 荒川淺次郎 | 六  | 小野伊佐治  |

## 嗚呼人選を如何せん

町村に依てはまた間がある何なる人でも自惚根性のな  
 所もあるが議員選挙期日もい者はないから遂にお立モ  
 切迫して来た某村の如き、ツコに乗せられる「存代」  
 目睫の間に迫る候補者のかつぎだされる候補者」  
 顔觸を一瞥するに中には才云ふ句がある實際を穿てゐ  
 學兼備の士もあるが亦自分る思慮ある眞人物を決して  
 の名前もやつと書く位の底他人のお立モツコには乗  
 腦式な人物も少なくない今から世に現れない社會  
 り世は比較的人物と云はるは概ね此の様な有様だ夫れ  
 人は世にウトク平凡な野村から町村自治制の精心な  
 心家お先者が跋扈する時代にか更に念頭にない我利主  
 となつてきた、出る者も出義か若くは無爲にして四年  
 る者も之を擔ぐ者も悪い如の任期を終ると云ふ事にな  
 來得るか實に望洋の歎に堪

へない候補者の人選只に有  
 権者の自由のみ放任して  
 置く事は出来ない、存代に  
 カツギ出された候補者では  
 安心して村治の料理を委任  
 することが出来ない嗚呼人  
 選を如何せんや敢て天下の  
 識者に訴へ之れが草清を期  
 したいのである

## 俳句

實感社句稿 (初夏)  
 小川郷 若松超堂  
 初夏の樹下に憩ひり金魚  
 ショウインの色彩既に  
 初夏の町  
 麥帽の白きが目立つ初夏  
 の町  
 轉た寝の儘に更かじ初夏  
 夏を  
 全 吉岡獨歩  
 パラソルの波漂ひり初夏  
 の街  
 パーの燈の絢爛として初  
 夏に入る  
 病む妹の初夏の陽浴びて  
 黙然居りぬ  
 初夏の陽に乾し並べたり  
 足駄の齒  
 全 松本松甫  
 小糠雨霽れていつしか夏  
 に入る  
 初夏の旭まばゆき玻璃戸  
 かな  
 風呂を出て暫し吹かれつ

## 内郷村會議員候補者

# 佐藤三平君は

清廉實直にして正義硬骨熱烈なる愛  
 村の士なり内郷村會議員の最適任者  
 と認め推薦致し候間御同情を賜り度  
 懇願仕り候

内郷村小島字下の内二八  
 山下 喜代、治

## 心の洗濯

初夏の風  
 初夏の日ざし鏡と亞鉛屋  
 根

心の汚は衣類の汚、異なり  
 一見見ざる如きも人は凡  
 て手前が見へないと云ふの  
 はそれである他人から見  
 るときは判然と見ゆる其言  
 に表はれ行動にあらはれる  
 議員選挙の際の如き買収  
 たのされたと云ふ行動は  
 皆心の汚れた人である、最  
 早に洗滌するべきである、  
 町村會議員選挙も目睫の間  
 常に心の洗濯を怠るは遂に  
 あかだらけの心となつてし  
 むらう人世修養の一日も欠  
 べからざるを思ふ修養即ち  
 洗濯である聖賢の書熟讀が  
 ん味して人生の本善に立ち  
 反つた時にあり孔子の教  
 訓如き仁義の道吾國古來よ  
 り世道人心を裨益するもの  
 甚大なり人生三日書を講せ  
 ざれば三日世にをくる、と  
 云はれてある人心の浮薄思  
 想の悪化は日に月に增長し  
 てくる小學校教育に俟つ所  
 敷かれ以て既に五十年今に  
 去りて居るのみか反てあ  
 して其不利益は延びて町村  
 民の頭上に降りくることに  
 所以である (野外生)



寫眞 眞員冠  
 普多荷  
 初選多數  
 頭以府國  
 平直田  
 町選當  
 議會榮  
 氏良

### 内郷村議戦激烈

#### 無産派も名乗を擧げ 四派亂闘の巷と化する

縣下隨一の大村たる内郷村の村議改選は愈々來る八日に迫り磐城炭礦では御用候補として逸早く港慶三郎、石橋廣毅、猪狩喜平次、小野昇、南波正、山崎辰伊、長谷川幾之助、大方遠也、小南不二男、加美山武夫、龜田收造の十一名を立候補せしめ職員社宅から坑夫納屋まで外來の選舉運動者は一切入るべからずと結束を固め會社側で嚴重に警戒してゐるが一方虎視眈々として時期を窺つた民社黨石城支部創立準備會では廿九日公認候補者として小峯竹次郎、今泉清藏、兒玉慶次郎の三名を擁立し正式届出でとなしたが兒玉君は磐城炭礦町田坑の機械係であり現従業員の内から無産黨候補が名乗りを擧げたので會社側では極度に狼狽し種々對策を講じてゐる尙地元より名乗りを擧げた有力なる候補者は

佐藤三平  
菅波忠治  
生田常四郎  
根本金三郎  
山崎喜一  
沼田濱之助  
金澤爲喜  
島田兼吉  
平田良三  
鈴木佐一  
小松定次郎  
久野喜平  
志賀留吉  
加藤丈夫

諸氏すでに戦端を開始しつゝあり期日の切迫に伴ひ社民黨より更に二三名地元側から十名以上の立候補する模様で炭礦の御用黨、無産黨、政、民四派の立候補全部で三十八九名に達すべく四派入り亂れて猛烈なる競争を免れない形勢である

**馬場茂市**  
内郷村峯根

豆腐製造業  
**白田久一郎**  
内郷村金坂

印刷業  
**田中清一**  
内郷村内町

**金澤源吉**  
内郷村平太郎

**須藤榮之助**  
内郷村平太郎

**小松安吉**  
内郷村町田

磐城炭礦社宅世話役  
**品田豊松**  
内郷村字平太郎

良品廉賣に勝る商略なし  
**磐城平町五丁目**  
磐城セメント株式会社特約代理店

和洋銅鐵  
**久釜屋商店**  
電話九番 一三九番  
振替貯金口座東京一〇九五六番

確實敏捷は久の生命なり

**吉田廣實**  
内郷村町田

**田中龜吉**  
内郷村町田

**船田義信**  
内郷村宮澤

**堀一郎**  
内郷村内町

### 平町會議員 (同不序順)

## 當選御禮

青沼鋒太郎	花澤兎五六郎	荒川恒次郎	永山富廣	吉村安治郎	石山治三郎	吉田寅之輔	柳下元吉	馬目雅治	國府田直良	大森勇	萩原義雄	根本品藏	武田元之助	佐々木龍若
綠川喜三郎	千葉彦治	齋藤敏實	吉田五平	野崎滿藏	高橋龜松	櫻井清	坂本隆藏	關内正一	猪狩庄平	井上茂作	馬目武之助	荒川淺次郎	佐藤岩次郎	鈴木光吉